

キュウリホモプシス根腐病における カボチャ台木品種による発病度の差異

福島県農業総合センター 作物園芸部野菜科

1 部門名

野菜 - キュウリ - 病害虫防除

2 担当者

原 有・穴戸邦明・大竹祐一・木村善明

3 要旨

- (1) キュウリ用カボチャ台木等 23 品種について、ホモプシス根腐病の病原菌を接種したポット試験での発病を調査した結果、いずれの台木品種についても、キュウリ自根と比較して地上部の発症が遅く、調査期間を通じて発病指数は低く推移した。特にブルーム台木品種では地上部の病徴が認められなかった。供試されたブルームレス台木の中では、「シェルパ」、「エイブル」及び「輝太郎」の根部の発病指数が低かった(図1)。
- (2) さらに、台木を絞り込んで同様の試験を実施したところ、「シェルパ」「エイブル」の発病度が低く、この2品種が比較的高い耐病性を有すると考えられた。

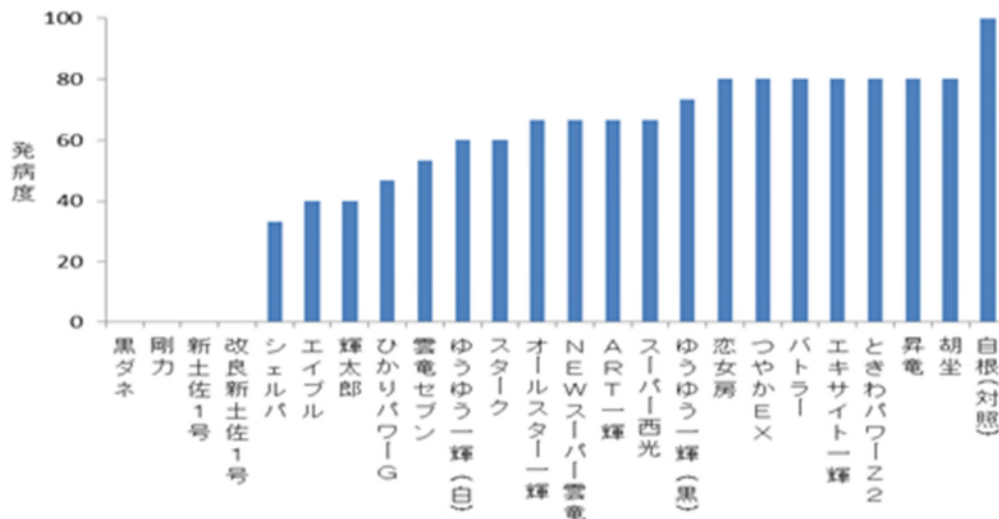


図1 キュウリ用カボチャ台木品種によるホモプシス根腐病の発病度

注1) 調査株数は、各品種5株。

注2) 黒ダネ、剛力、新土佐1号、改良新土佐1号はブルーム台木である。

注3) 菌接種66日後、地上部の発病を以下により調査した。発病度は、発病指数を0:病徴なし、1:一部の葉が萎ちょう、2:全ての葉が萎ちょう、3:枯死の4段階に分類し、
発病度 = (発病指数 × 株数) / (3 × 供試株数) × 100 により求めた。

4 成果を得た課題名

- (1) 研究期間 平成22年度～24年度
- (2) 研究課題名 耐病性台木活用による被害緩和技術の確立
- (3) 参考となる成果の区分 (指導参考)

5 主な参考文献・資料

- (1) 平成22年度～23年度センター試験成績概要